



## 今回のテーマ

# 地域や学校で取り組まれている防災教育

今回のテーマでは、全国各地の学校や地域で実践されている防災教育の取り組み事例をご紹介します。

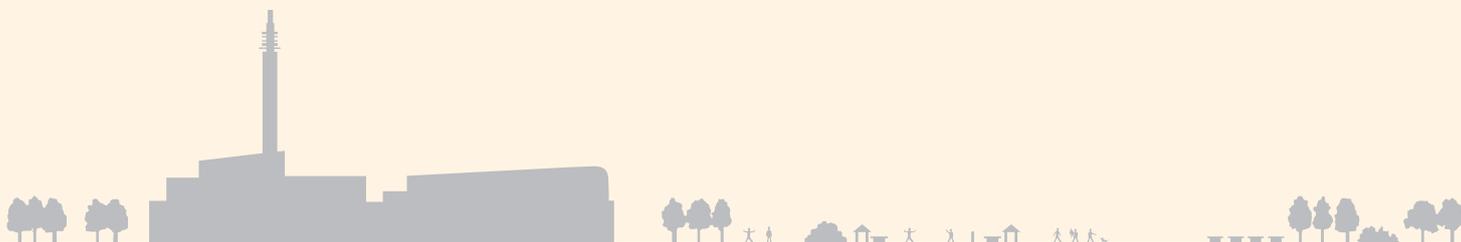
## 防災教育の重要性

東日本大震災では、過去の災害教訓に基づく防災教育や避難訓練により、適切な避難行動を取ることができた学校の事例がありました。

学校や地域における防災教育をより一層充実し、一人一人が自然災害を正しく理解し、自らの的確な判断の下で防災・減災行動を取れるようにしていくことが重要です。



出典：内閣府「広報ぼうさい」平成23年冬号



# 様々な防災教育の取り組み

防災教育を行う際には、様々な手段や活動の仕方があります。



「防災教育チャレンジプラン」 [www.bosai-study.net](http://www.bosai-study.net)  
で紹介している防災教育の素材例（抜粋）

## 遊び楽しみながらの防災

パネルで紹介

防災ゲーム  
防災クッキング  
紙芝居  
劇・寸劇



など

## 防災に関する知識を深める

イメージマップづくり  
分科会・ワークショップ  
ビデオ視聴  
被災者体験談を聞く



など

## 防災に役立つ資料作り

暮らしの安全読本づくり  
震災記録集  
防災カレンダー作り  
防災マップツール



など

## 災害に強い地域をみんなで考える

パネルで紹介

防災マップ  
災害図上訓練(DIG)  
地域の方への調査  
役所・役場訪問



など

## 災害を疑似体験する

起震車  
防災館体験  
フィールドワーク  
津波被害立体地図製作



など

## 災害を想定した訓練

避難訓練・防災訓練  
炊き出し  
応急担架  
避難所体験



など

もっと詳しく知りたい方はこちらへ

防災教育チャレンジプラン

検索



防災チャレンジプラン <http://www.bosai-study.net/>

# 「遊び・楽しみながらの防災教育」 防災ゲーム①

## 防災ゲーム



とは？

防災ゲームは、いつでも誰でもすぐできる  
防災教育のツールです。

### なまずの学校

そなエリア2Fで体験できるよ

震災後に発生するさまざまなトラブルを紙芝居形式で出題し、  
トラブルを解決するアイテムカードを出してもらい、得点を  
競うゲームです。震災時における「入手しやすさ」「使いやすさ」  
の観点から正解ごとに得点がついています。

- 対象：8才以上向け（小学校中学年～）／推奨人数：3～6人
- 制作：NPO 法人プラス・アーツ
- 協力：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- イラスト：西口芳恵



そなエリア東京2階で、  
体験してみよう！

### ぼうさいDuck

そなエリア2Fで体験できるよ

安全・安心の「最初の第一歩」を、からだを動かし、  
声を出して遊びながら学んでもらうためのカード  
ゲームです。カードには、災害や日常の危険から身  
を守るだけでなく、挨拶など日常の習慣について  
学ぶものも含まれています。



- 対象：  
幼児から小学校低学年
- 制作：  
一般社団法人  
日本損害保険協会

### あそぼうさいカルタ



地震・津波から身を守るために大事な  
ことを子どもに伝え、記憶に残すこと  
が、いざというときに、その子の命を  
救うこととなります。そうしたことを  
絵でイメージをわかせながら、繰り返  
し遊んで学べるカルタです。

- 制作：高知県危機管理部地震・防災課
- イラスト：やなせたかし

### 楽しみながら学べる フレキシブルな展示ギャラリー

企画展等にも活用出来るフレ  
キシブルな展示ギャラリー。

世界の防災用品や各種防災  
ゲームが展示されていて、  
ワークショップ空間では実際  
にゲームを楽しむことも出来  
ます。



# 「遊び・楽しみながらの防災教育」 防災ゲーム②

そなエリア東京の2F 防災ギャラリーには、この他にも外国のゲーム等  
色々な防災ゲームが展示されています。是非、実物をご覧ください。

## クロスロードゲーム

「クロスロード」とは、「岐路」、「分かれ道」のことです。  
災害に直面し対応することは、ジレンマを伴う重大な決断の連続で  
す。ゲームをしながら防災対応を自らの問題として考えるとともに、  
自分とは異なる意見・価値観があることへの気づきも得られます。

●制作：チームクロスロード（網代剛、吉川肇子、矢守克也）

※“CROSSROAD” および「クロスロード」は、登録商標です。

「クロスロード」：商願番号 2004-83439(第28類)、「CROSSROAD」：同 2004-83440(第28類)



## シャッフル

災害時に役立つ様々な知識・知恵・技の手順を、遊びながら身につけることができるカードゲームです。  
ガスメーターの復帰方法などの手順が描かれた4枚のカードを、  
考えて正しい順番に並びかえ、正解するとポイントがもらえます。

●制作：東京ガス株式会社、NPO 法人プラス・アーツ

●イラスト：寄藤文平・北谷彩夏（文平銀座） ●テキスト：寄藤牧子



## 防災すごろくゲーム「GURAGURATOWN」

「阪神淡路大震災」の教訓を活かして開発されたすごろくゲームで  
す。ゲーム中に突如発生する地震に対して、自分の持っているア  
イテムを工夫して使うことで、問題を解決します。災害時に役立つ  
アイテムを楽しみながら覚えることができます。

●制作：NPO 法人プラス・アーツ 協力：apod

●イラスト：加藤朋子 ●監修：吉川肇子、矢守克也



## ぼうさい駅伝

防災クイズに解答しながら、コマを進めるすごろく形式のゲーム  
です。チームを組んだ2人が、ボード上5つに区切られた区間を  
交互に解答しながらタスキをつないでいくので「駅伝」と命名さ  
れました。ゲームをしながら楽しく防災知識が学べます。

●制作：防災ゲーム研究会（事務局：公益財団法人市民防災研究所）



# 「災害に強い地域をみんなで考える防災教育」 災害図上訓練（DIG）<sup>ディグ</sup>



地図や見取り図に参加者自身が書き込みをすることで、自分の地域や住まい・職場に潜む災害の危険性を「見える化」し、災害を防ぐためにはどうすればよいかをみんなで考える防災訓練です。

DIGは、D(Disaster(災害))、I(Imagination(想像力))、G(Game(ゲーム))の頭文字をつなげたものです。

## 準備するもの

### 大きな地図

1m～2m四方くらいの大きさが効果的。



### 透明シート(複数枚)

地図にかぶせて書き込むのに使う。



### 油性のカラーペン

太字・細字両用の8～12色セットが便利。



### テープ類

地図や透明シートの固定に使うガムテープやはがせるテープ等。



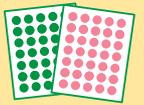
### 付せん

地図上に表示したり、意見を書き出すときに使う。



### ドットシール

地図上にマーキングするとき使う。



### 模造紙やホワイトボード

意見を書き出すときに使う。



## DIGの進め方

### 始める前に

参加者のグループ分けを行います。1グループ5名～10名が適当です。企画・運営スタッフの中から進行係(司会者)を決めておきます。グループで行う作業や話し合いを支援する補助係を配置すると効果的です。

### ① DIGの説明と参加者の立場の明確化

「どのような災害を想定するのか」「参加者がどのような立場でDIGに取り組むのか」など、これから実施するDIGのねらいについて共通理解を図ります。

### ② 防災情報の提供

テーマや参加者などに応じて防災に関する情報提供を行います。



### ③ 雰囲気づくり

進行にあたっての留意事項を伝えるとともに、参加者の自己紹介などにより、話しやすい雰囲気づくりにつとめます。



### ④ 地図への書き込み

用意した地図の上に透明シートを重ねます。次に、シートの上から、油性ペンやドットシールなどを使って、様々な防災関係情報を書き込みます。



### ⑤ グループ討論

作成した地図を見ながらテーマに応じた意見交換を行います。

- 地域の防災関連施設・設備の配置・バランス
- 災害に対する地域の弱点
- 地域で必要な防災対策など

### ⑥ 成果発表・講評

グループごとに、話し合った内容について発表し、質疑応答などを行います。その後、進行係などが中心となり、全体の感想や参加者の取り組み状況、防災上の課題などを総評します。



鉄道・道路・川などを塗り分ける。

公共施設・高齢者・自治会長などを図示。

地図出典：内閣府「広報ほうさい」平成20年11月号

### 取り組み事例

#### 「四国東南海・南海地震対策連絡調整会議」

四国東南海・南海地震対策連絡調整会議では、東南海・南海地震が四国に及ぼす災害想定に対して地域住民がどのように対処すべきか、各地で行政と住民が災害図上訓練(DIG)を用いて合意形成を図りながら議論を行っています。

出典：災害図上訓練(DIG)を用いた地域防災力づくり  
平成20年3月 国土交通省四国地方整備局



# 地域や学校で取り組む 防災教育

今後発生が懸念される大規模災害に備えて、学校や地域では、防災教育をより一層充実し、防災意識を高めていくために様々な取り組みが行われています。

## 避難所<sup>ハグ</sup>HUG

地域住民等の避難状況に応じて、避難所に見立てた平面図に適切に避難者を配置できるか、トラブルにどう対応するか等、避難所運営を模擬体験するゲームです。



出典：地方公共団体の風水害図上型防災訓練の実施要領のあり方に関する調査研究報告書 平成 22 年 1 月 総務省消防庁

## 防災運動会

防災訓練に競技・ゲーム要素を取り入れて、担架リレー、バケツリレー、防災クイズなどを行い、子どもからお年寄りまで楽しく参加できる運動会です。



出典：神戸市消防局 HP

## 地域・学校・家庭の 連携による防災教育の推進

木造家屋密集地帯にある横浜市立北綱島小学校では、学校外での災害時の生き抜き方も教える必要があるとして、学校、家庭、地域の連携組織を構築し、3者が地域で一体となった防災教育に取り組んでいます。



出典：2012 年度 防災教育チャレンジプラン「横浜市立北綱島小学校」

## 知る、備える、行動する 防災学習に取り組む学校

東日本大震災の津波災害を受けた気仙沼市立階上中学校では、学校と地域が一体となって防災活動に取り組んでいます。



出典：2013 年度 防災教育チャレンジプラン「気仙沼市立階上中学校」

# イザという時に役に立つ 避難所HUG



様々な事情をかかえた避難者のカードを、体育館や教室などの図面に配置することを通じて、避難所で起こる様々な問題を模擬体験するゲームとして静岡県が開発したものです。

HUGは、Hinanzyo（避難所）、Unei（運営）、Game（ゲーム）の頭文字をつなげたものです。

## 準備するもの

### カード

1番から250番までを順に並べたものを、1グループに1セット準備

### 会議机と椅子、掲示板

- ・ゲームは、数人1組のグループを何組か作って行う。
- ・情報を張り出すために、ホワイトボード等の掲示板を用意。

### アイスプレイングシート

簡単自己紹介用紙を、参加者に1人1枚用意。

### 各用紙セット、セロハンテープ

- ・「体育館」、「教室」、「敷地図」、「間取図」を、1グループに1セット用意。
- ・体育館は4枚を貼り合わせて作るの、セロハンテープも準備。

### 筆記用具、古新聞紙

油性ペンやマーカー（6色セットや12色セット）。なお、用紙の下に古新聞紙などを敷くと机が汚れません。

### メモ用紙（付せん）、白紙

A4の8分の1から4分の1の大きさがあれば十分。大きめの付せんも便利。A4サイズの白紙も便利なのでできれば用意したい。

### 〈あると便利なもの〉

ゲームの説明を画像で行う場合は、パソコン、プロジェクター、マイクなども用意。デジタルカメラで体験会を撮影しておく、避難所マニュアル作成時の検討材料にもなります。

## HUGの進め方

### 始める前に

カードを読み上げてゲームを進めますので、**グループに1人読み上げ係を決めます。**尚、1グループは6人以下で行うことが適切です。読み上げ係はゲームの進行や助言役にもなりますので、経験者が行うとよいでしょう。

### ① スペース作り

ゲームスペースに、「体育館」、「敷地図」、「間取図」、「教室」用紙を置きます。「教室」の用紙はどの教室を使うかわからないので、全部広げる必要はありません。



### ② ゲームの設定条件を説明

避難当日の、設定条件（震度、気象条件、季節、時間、被災状況、避難者の様子）を説明します。設定条件は基本的に任意です。



### ③ 自己紹介

参加者の心をほぐす目的から簡単な自己紹介（アイスプレイング）を行います。ゲームの進行や雰囲気や滑になりますので、必ず行ってください。



### ④ ゲーム開始

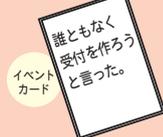
カードの1番から15番までを読みあげてからスペースに出し、プレイヤーは体育館にどのように配置するかを相談します。

カードは、1世帯分をまとめて読みあげます。必ず読みあげてからプレイヤーに渡してください。カード情報をグループ内に周知することでプレイヤー全員が危機感を持って対応にあたります。



カード1枚は1.5m×2.0mで、面積が3平方メートルとします。これは、避難者1人あたりの必要面積です。

15番までの中に、「誰ともなく受付を作ろうと言った。」というイベントカードが1枚入っています。このカードは受付の場所を決めようという意味ですから、敷地図、体育館または間取図のどこかに「受付」と記入します。



時間内に配置したら **ゲーム終了**

### ⑤ 意見交換

メモ用紙を全員に配付し、各グループは、「私たちのグループでは、〇〇は△△だから、××しました。他のグループではどうしましたか？」と記入し、他のグループから意見を求めます。これを何回か繰り返して、他のグループとの比較検討を行います。



### 取り組み事例 鹿児島県伊佐市

鹿児島県伊佐市は集中豪雨が多い地域で、風水害対策上は「住民による適切な避難行動」及び「適切な避難所運営」が主な課題です。そこで地域住民を訓練対象として避難所HUGを防災教材に用いて、市職員、各地域代表者が参加する避難所運営ゲームを実施しました。



出典：地方公共団体の風水害図上型防災訓練の実施要領のあり方に関する調査研究報告書 平成22年1月 総務省消防庁

# 楽しく参加できる 防災運動会



## 防災 運動会



とは？

防災訓練に競技・ゲーム要素を取り入れて、担架リレー、バケツリレー、防災クイズなどを行い、幅広い年齢層の方々が楽しく参加できる運動会です。

### 事例

## 入江地域防災運動会（神戸市兵庫区）

主催：入江地域防災福祉コミュニティ  
参加者：西出町、東出町、佐比江町、兵庫町、湊町、七宮町、島上町の住民、兵庫消防団第五分団

子どもから高齢者まで誰でも気軽に参加できる運動会を通じて防災への関心を深め、訓練を意識しない防災訓練を行っています。

### プログラム

- ① **防災〇×クイズ**（参加者全員）  
クイズ勝ち残りゲーム、正解をして最後まで残ろう。
- ② **防災カルタ競技**（親子参加）  
会場のグラウンドにまき散らした大型カルタをさがします。
- ③ **さあ避難開始、防災グッズはどこだ**（各町内選抜）  
たくさんのグッズから防災グッズを選んでリュックサックに入れるゲームです。
- ④ **簡易担架、車椅子搬送リレー**（各町内選抜）  
各チームが車椅子や簡易担架で、体の不自由な人や怪我人を避難所に運びます。早さよりもあわてない安全な搬送を心がけます。
- ⑤ **情報班・救出班・誘導班・給食班出動**（各町内選抜）  
防災器具さがしゲームです。
- ⑥ **消火競争**（各町内選抜）  
消火器の正しい使い方を学びます。
- ⑦ **バケツリレー**（小中学生と大人の対抗戦）  
早く正確に水を運ぶ。チームワークが大切。



◀防災カルタ競技



◀情報班・救出班・誘導班・給食班出動



◀消火競争



◀バケツリレー

### ポイント

- 誰でも参加できる防災カルタや、防災〇×クイズを用意して楽しみながら知識習得できるようにしました。
- 小中学生も参加したくなるゲーム形式のプログラムに工夫しました。
- 地域との繋がりが希薄になりがちな若い保護者が子どもと参加して、自治会などへ参加するきっかけとなる種目を取り入れました。



# 地域・学校・家庭連携による 防災教育の推進

木造家屋密集地帯にある横浜市立北綱島小学校では、学校にいる時間帯でも、帰宅後の時間帯でも、子どもが震災から自らの知識と判断で身を守ることできる力を育成するため、防災教育に取り組んでいます。

## 事例

### プラン名 「学校、地域、保護者が地域の災害想定を共有して取り組む防災教育の推進」

### 横浜市立北綱島小学校

#### 防災教育の 目的

1. 最悪の想定（火災延焼）と行動の基準を、学校、家庭、地域で共有。
2. 総合的な学習の時間等を活用した児童の防災リテラシーの向上。
3. 子どもを守り抜く学校組織と、火災延焼への防災対策など、実践的な訓練による研究。
4. 家庭の防災リテラシーを高め、親子で身の守り方を考え、実践できる力を育てる。
5. 学校、家庭、地域の連携組織を構築し、地域防災訓練を児童、保護者参加のもと充実させる。

#### 具体的な取り組み

##### ① 「震災から守ろう！綱島のまち」地震学者によるDIG

自らの町の防災を考えることを目標に「6年総合的な学習の時間」では、地震学者を講師に招き、6年生はDIGを経験しました。学習の成果は地域や保護者へ発表することで、大人たちの防災意識向上に働きかけました。



6年生による地域防災拠点訓練での発表

##### ② 保護者防災教室

保護者の防災に関する知識を深めるために保護者防災教室を実施し、建築士による「耐震補強」「家具固定」の講演を開催しました。保護者が自ら「耐震」について学び、「事前防災」を考えるきっかけとなりました。



手投げ式消化器を装備したPTAの皆さん

##### ③ 宿泊防災訓練

災害対応能力の育成のために、首都直下型地震が発生した場合の児童宿泊を想定した「宿泊防災訓練」を実施しました。

1. 地震・余震対応訓練（起震車体験）
2. 応急手当訓練（レジ袋など身近なもので応急手当をする実技）
3. 学校での宿泊体験・テント生活体験（5・6年生 90名参加）
4. 第二次避難場所への避難訓練
5. 食事訓練（夕食）炊き出しごはん レトルトカレー
6. 夜間行動訓練（簡易ランプづくり体験含む）
7. 夜間就寝訓練（体温の保持を図って快適に眠る訓練）
8. 自宅避難耐久調理訓練（炊飯袋による自宅米の炊飯方法）

食事訓練（夕食）▶



◀簡易ランプづくり体験

# 知る、備える、行動する 防災学習に取り組む学校

気仙沼市立階上中学校では、東日本大震災による被災の反省から、正しい知識や十分な備え、日頃の訓練の充実を図る防災学習に取り組んでいます。その中で、公的機関の役割やNPO等の活動内容などを学ぶと共に、地域の復興に向けて考えを深めています。

## 事例

### プラン名 「自助・公助」 気仙沼市立階上中学校

2013年度防災教育チャレンジプラン防災大賞受賞

#### 防災教育の視点

#### 知る

正しい知識と技能を身に付けておかなければ、いざという時に的確な判断ができない。

#### 備える

正しい知識を得て、どんな備えが必要かを考え、日頃から準備しておく必要がある。

#### 行動する

頭で理解しただけでは行動に結びつかない。訓練でできないことは本番でもできない！

#### 具体的な取り組み

##### ① NPOの代表者による 防災講演会



##### ⑤ 緊急地震速報を活用した ショート訓練



##### ② 学年毎防災体験活動 1年 津波のメカニズムについての講義 2年 救急救命応急手当講習会 3年 小学生への防災啓発活動



##### ⑥ 地区毎の一次避難訓練と 小中合同の児童・ 生徒引き渡し訓練



##### ③ 消防署員を講師とした 「公助」学習会



##### ⑦ 避難所設営訓練



##### ④ 防災学習発表会



##### ⑧ 仮設住宅居住者との 合同避難訓練



# 発達の段階に応じて取り組む 子どもたちへの防災教育

子どもたちへの防災教育は、幼稚園児から中学生まで、子どもの成長に合わせて段階的に学んでいく事が大切です。また、子どもたちが防災教育から学んだ事を家庭や地域に波及させるために、様々な取り組みを行っています。

## ・ 発達の段階に応じた防災教育 ・

年齢区分	テーマ・ねらい	取り組み事例	範囲
幼稚園児	<b>自分の身を守る</b> 自分の命は自分で守ることを体で覚える。	ダンゴムシのポーズ 	自分
小学校 低学年	<b>危険に備える</b> 安全な場所を瞬時に見抜く力を養う。	教室等身の周りの危険を見つける。 	教室
小学校 中学年	<b>危険に備える</b> ・大きい危険と小さい危険を自分で判断する力を養う。 ・防災教育を家庭に持ち込む。	・学校内の危険の大小を判断する。 ・家庭内の危険を探して親と一緒に考える。 	学校 家庭
小学校 高学年	<b>危険に備える</b> 通学路の危険なところ、安全なところを見抜く力を養う。	通学路等の防災マップづくり。 	地域
中学生	<b>地域と関わる</b> 避難所で起こる様々なジレンマ場面に対応できる力を養う。	大人になったつもりで避難所運営訓練を自分たちで行う。 	地域



# 子どもたちへの防災教育 取り組み事例②

小学校・高学年

## “危険に備える”

通学路の危険なところ、安全なところを見抜く力を養う。

杉並区立高井戸第二小学校

### 「防災マップづくり」

通学路ごとに、ブロック塀や看板、商品棚などの危険場所をチェックします。同時に、消火器や公衆電話、学校、公園、神社など、災害時の助けになるものや場所について自分で見つけ出し、防災マップを作ります。

作成した児童たちは、防災マップを下学年や保護者に発表し、地域の皆さんにも防災対策を考えてもらいます。



写真提供：慶應義塾大学 大木聖子准教授

中学校

## “地域と関わる”

避難所で起こる様々なジレンマ場面に  
対応できる力を養う。

南三陸町立歌津中学校

### 「自分たちが主役の避難所運営訓練」

「避難所運営」は地域住民が行うものです。そこで、「避難所運営訓練」では、生徒が30年後の地域住民になったつもりで、自分たちだけで訓練を行います。訓練の中で、先生が災害時の問題を次々に提示し、生徒たちが自ら考え対応していきます。

### 「将来の防災の担い手として」

この訓練を通して、自分で自分の役割を見つけ判断する力をつける事で、将来、災害に見舞われても、地域住民として自分たちの地域を守れることを目指しています。



「避難所開設時にやることリスト」の掲示



炊き出し訓練



要救助者の搬送準備

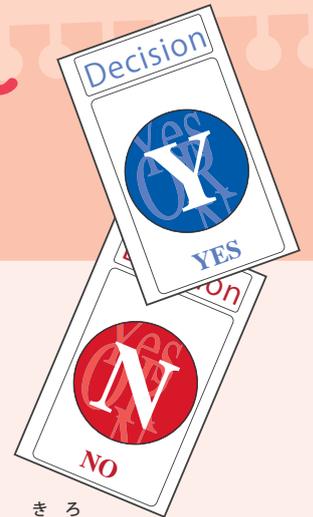


トイレ用水の確保

写真出典：消防庁「消防の動き」2013年11月

# ～クロスロードを体験しよう～

## クロスロードとは



### ◆災害対応を学習するカードゲーム



「クロスロード」とは、英語で「<sup>きろ</sup>岐路」、  
「分かれ道」を意味しています。

トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームです。参加者は、災害への備えや災害後に起こる様々なジレンマを伴う決断を、自らの問題として考える事で理解を深めていきます。また、自分とは異なる意見・価値観があることに気づくことができます。

### ◆正解のない問題を考えること

カードに書かれている問題には正解がついていません。しかし、それらの問題について、参加される皆さんが話し合うことによって、皆さんならではの「正解」を考えて頂くことは可能です。

それぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づいて頂くことをねらいとしています。



ゲームを通して皆さんの正解を考えてください。

制作：チームクロスロード（網代剛、吉川肇子、矢守克也）

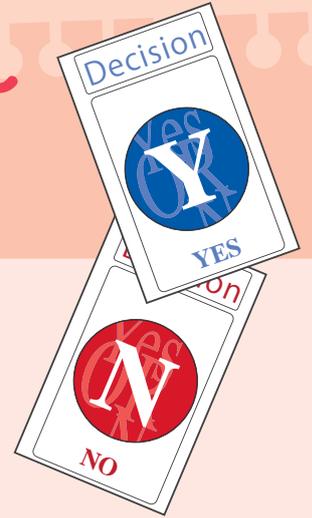
※「CROSSROAD」および「クロスロード」は、登録商標です。

「クロスロード」：商願番号 2004-83439(第 28 類)、「CROSSROAD」：同 2004-83440(第 28 類)

# ～クロスロードを体験しよう～ ゲームの進め方



1 グループ 5～7 人程度でゲームを進めます。



1 問題カードに対して  
各人が Yes か No を考えます。



2 自分ならどうするかを考え、  
Yes か No かどちらかのカードを選び、  
裏返してテーブルに置きます。



3 一斉にカードをオープン！



多数派は全員青座布団  
がもらえます。



一人だけ意見が異なる場合は  
その人だけ金座布団がもらえ  
ます。その際、他の人はもらえ  
ません。



4 各人が Yes、No を選んだ理由を  
話し合います。



次の問題に進みます。

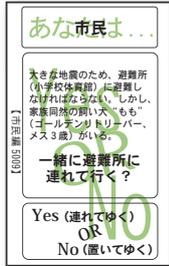


自分は〇〇なので、  
△△はした方が良い  
と思います。

最初は□□とっていたけど、  
確かに△△という考え方  
もありますね。



# ～クロスロードを体験しよう～ こんな場面に遭遇したらどうする？



## 問題【市民編 5009】

あなたは…市民

大きな地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければならない。

しかし、家族同然の飼い犬“もも”（ゴールデンリトリバー、メス3歳）がいる。

一緒に避難所に連れて行く？

Yes (連れてゆく) No (置いてゆく)

Yes?



No?



# ～クロスロードを体験しよう～ あなたは、どう考えますか？

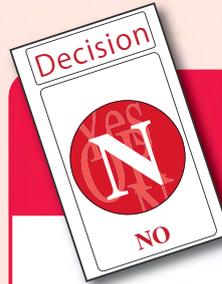


## Yes (連れてゆく) の問題点

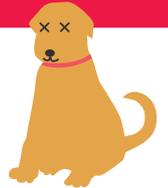


- 犬が嫌いな人がいる
- 犬アレルギーの人の迷惑になる
- 鳴き声がうるさい

・・・等



## No (置いてゆく) の問題点



- 飼い主がさびしくなる
- 犬がかわいそう
- (飼い主が) 置いてきた犬が気になる

・・・等

## ～この問題から、みなさんに考えていただきたいこと～

- ◆ 他の避難者の方々に迷惑をかけずに、飼い主と犬と一緒に過ごすための方法を考えてみましょう。
- ◆ 避難所で、犬を受け入れるための方法について考えてみましょう。
- ◆ 避難所で、犬の食事の用意はどうすればよいか考えてみましょう。用意できない場合に備え、どんな準備が必要か考えてみましょう。
- ◆ 犬以外のペット、たとえば、猫、うさぎ、ならばどうすれば良いのか、考えてみましょう。

### コラム 避難所での犬の受け入れ方法の一例

避難所におけるペットの取扱いは様々であり、屋内で飼育が認められている場合やペット専用係留場が設置されている場合等があります



ペット専用係留場で飼育されている様子



屋内で飼育している様子



人とペットの同居テント

写真出典：環境省「災害時」におけるペットの救護対策ガイドライン

